

# 食べてよい餌、悪い餌？

スーパーからの帰り道、寅さんとハツイさん(寅さんの奥さん)の会話。

ハツイ：あれ、お父ちゃん！ おらげの田んぼでサルめが何かしてるわ。

寅次：なんだんべ。ずいぶんいるんじゃないけ？

ハツイ：なんか食べてるよ。

寅次：落穂拾ってるみてーだわ。

ハツイ：寒くなるとサルめも餌がなくて、かわいそうだな。

寅次：動物らも容易じゃねー\*わな。

\*容易じゃねー：楽ではない

# 鳥獣新聞

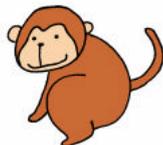
第4号  
男体おろし霜焼け号

## 寅さん、ちょっと待った！

近畿中国四国農業研究センターの井上さんによれば、動物の餌は以下の2種類に分けられるそうです。

食べると怒られる餌

食べても怒られない餌



ふつう、サルが稲やカボチャなど農作物を荒らしている姿を見れば、人は怒って追払います。しかし、寅次さんの例のように、食べても怒られない餌もいろいろあります。サルにとってみればどちらも同じ餌なので、「怒られない餌」があることは、サルを集落に呼び寄せることにつながってしまいます。

## 鳥獣害特措法成立しました

新聞などで報道されているところですが、法律が成立し2月21日より施行されます。

注目の自衛隊については、柵の設置や緩衝帯整備に関してのみ、協力を求めることができることになりました。

このほか、市町村が独自に被害防止計画を策定することにより、国からの財政的な支援が受けやすくなる仕組みが作られており、今後一層被害対策が進むことが期待されます。

発行：鳥獣新聞編集部（栃木県自然環境課内）

028-623-3261 FAX028-623-3212

ご意見、ご要望などお待ちしております。

無断転写、複製、転送、公開、掲示、配布など大歓迎！



食べると怒られる餌

収穫前のイネ  
畑のカボチャ、トウモロコシ、  
サツマイモ、ダイコン  
軒下の干し柿  
明日食べようと思っていたビワ  
仏壇にお供えしたリンゴ  
など・・・

食べても怒られない餌

収穫後の落穂、刈取後の二番穂  
市場に出せずに穴に捨てた廃棄  
野菜や、畦の雑草  
庭になりっぱなしの柿  
廃屋の庭のビワ  
墓地にお供えしたリンゴ  
など・・・



これはサルを主にみた例ですが、イノシシやクマなどについても、同じように2種類の餌に分かれます。

野生動物たちは、食べることに必死です。目の前においしい餌があり、しかも食べても怒られないのであれば、**大切な餌場として認識**するようになります。こうして集落に居座るうちにだんだん凶々しくなり、人の目を盗んで「怒られる餌」にも手を出すようになってきます。

## 集落の環境整備でサルを寄せ付けない

被害対策には、**集落の環境整備 = 餌となるものをなくすこと**が重要です。防護柵などで「怒られる餌」を守ることも大切ですが、同時に、「怒られない餌」をなくすことにも注意を払うべきです。稲刈り後は田起こしをすることにより、落穂や二番穂をなくすことができます。また、廃棄野菜はきちんと埋め、冬場の畦の草は少なくなるように管理しましょう。収穫予定のない果樹は、思い切って切ってしましましょう。墓地のお供えものは、持ち帰りましょう。

さらに、「怒られない餌」を食べているときでも、「怒る」ことによって、**追払う努力**が必要です。



空き地の雑草もサルの立派な餌に